

ガーナでお絵描き  
くれよん プロジェクト 61号

ガーナはラマダン期に入りました。日本での生活や周りにムスリム教徒がいないと縁の薄いものですが、この期間のムスリム教徒は日中の飲食そして睡でさえ飲み込むことを禁じられている信者にとって神聖な行事となっています。このラマダンは新月を見て開始日が決まるのですが、毎年十一日ほど前にずれています。私がガーナ入りした10年前のラマダンは、今のとても暑い時期ではありませんでした。4月から6月初旬にかけて一番気温の高くなるガーナ、この時期のラマダンは日中の暑さに水を飲まずにはいけない私から見るととても大変な行事に思えます。

さて、今回のくれよんを使った授業はスクラッチ技法です。このスクラッチ技法は、10年活動している中で直接生徒に指導したことはありませんでした。今回授業を行なったのは中学1年生と2年生です。このスクラッチ技法は発展型授業につながったことを実感しました。削る道具として一人1個ピンを配ったのですが、ピンだと削られる部分がとても細くなってしまいます。生徒自らの気づきでボールペンキャップを使って削ったり、また教室内に落ちている木屑の先で削る生徒もいました。授業終了後は、スクラッチ技法がとても楽しかったようで、自前の中国製のくれよんを取り出して再度楽しもうとしていた生徒もいました。

報告日2021年4月17日 TOSHIKO

学校の生徒はキリスト教徒なので日中の絶食はしません。



協賛 ぺんてる株式会社様(すこくレーヨン)